

(福岡)

本調査地は、埋没地形である砂丘間低地(旧河道)上にあたり、鎌倉時代以前

博多遺跡群は、博多湾に面して形成された砂丘上に位置する複合遺跡である。遺跡群全体の時期としては、弥生時代中期から現代に及ぶが、古代末から中世にかけての対中国・対朝鮮の貿易拠点として著名である。

- 1 所在地 福岡市博多区中呉服町
- 2 調査期間 第一〇〇次調査 一九九六年(平8)一〇月ー一月
- 3 発掘機関 福岡市教育委員会
- 4 調査担当者 大庭康時
- 5 遺跡の種類 中世都市
- 6 遺跡の年代 弥生時代中期ー現代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

福岡・博多遺跡群

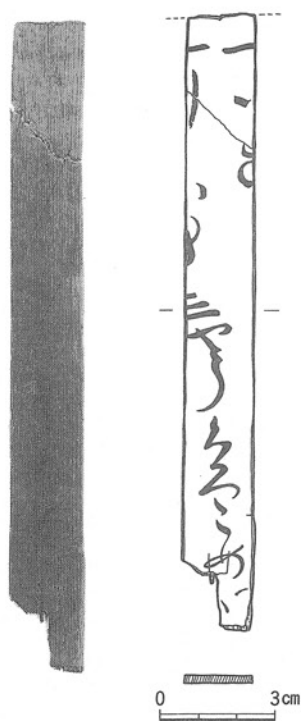
には遺構は営まれていない。一四世紀前半頃に、幅二m程の溝が掘られ、以後土坑・柱穴などがみられるようになる。この溝は掘り直しを重ねながら、一六世紀まで続いている。

木簡は、溝の下層の黒色泥土中から出土した。おおむね一四世紀前半頃の遺物と考えている。一点のみの出土である。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「一」□□
「三カ」
「一」□□
「やうくろこめ」□
(165)×(30)×25 081

左右及び下端は欠損している。表面に刃物傷がみられ、折敷断片と思われるが、はっきりしない。墨痕は遺存部分で二行確認できる。「三やうくろこめ」は、「算用黒米」であろうか。墨痕が残るので、以下に文字が続くと思われるが折損により不明である。



(大庭康時)